



相次ぐ台風の襲来は、列島の広い範囲に深刻な被害を今なお重ねています。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

このような風雨の合間を縫うようにして、いくつかの催し物がありました。

## 3年ぶりの開催

### 越ヶ谷秋まつり

強い台風のために一日目の10月12日（土）の各町の山車曳き回しは中止となってしまいましたが、台風一過の翌日13日は抜けるような青空の下、午前10時頃から山車の巡行が始まりました。地元の古老の方に伺うと、巡行の仕方が一頃よりも穏やかになったとのことでした。写真の山車は旧町名で表されて



います。それは「新石（しんこく）」という町名で、昭和30年代の地図には記されていました。町ごとに繰り出す山車は三輪で、町名を染め抜いた揃いの法被を着た人々が地下足袋を履いて牽きました。中には草鞋を履いていた人もいました。午後2時頃、御飯屋に安置されていた御神輿が、白装束の氏子の方々に担がれて旧日光道中を通して久伊豆神社に還御しました。



「新石町二丁目」は現在は越ヶ谷二丁目辺りです。

「新石」の山車

3年ぶりということで、巡行や還御への皆さんの思いもひとしおだったことでしょう。昨今、日本各地のお祭り、伝統行事の運営には、とても困難な状況があります。地域への人口移入や少子化、価値観の多様化などが背景にあります。お祭りは地域の人々の楽しみであると共に、古の人々の想いや地域の歴史を改めて見直す好機でもあるようです。



## 和紙に学ぶ

### エコ・ウィーク 2019 ミニ企画展

レイクタウン周辺で催された「エコ・ウィーク」に生涯学習課も参加しました。旧東方村中村家住宅での小さな展示「和紙に学ぶ」です。概要は以下のようになります。

- 1 和紙の生活用品・・・一閑張、行燈、折り紙細工、張子人形、和傘等の展示。
- 2 和紙の原形と伝播・・・和紙の原形が中国から東西に広がっていった様子を、世界地図上に表しました。
- 3 和紙の特性と発展・・・3つの原料やわが国独自に発展した紙漉きの様子。
- 4 和紙の製作工程・・・写真で紹介しました。
- 5 和紙の再生利用・・・一度使われたものを漉き直して利用した宿紙や襖の裏紙にしたものを紹介しました。また“喰い裂き”という和紙の特性を生かした修繕方法も紹介しました。



# お茶、美味しかった。和紙、勉強になりました。

当日はお茶会も催され、多くの方々にご来館いただきました。感想を書いて下さった方々もおられました。ご紹介しましょう。

★初めてで、お茶が熱いのではないかとこわかったけど、飲めたのでよかったです。和紙はカキシブをぬって水をはじくというはっそうが、すごいと思いました。昔の人はそんなこともできるなんて、すごいなと思いました。【小学生】

柿渋についてもよく見てくれたのですね。ありがとうございました。会ったこともない昔の人から学んだことは、とてもすばらしい経験になったことでしょう。

和傘：小学生が「紙の傘でぬれて破けないの？」と不思議そうでした。



★和紙の特性がよく解りました。レイアウトも内容が解りやすく良く出来ていると思いました。

【60歳代】

有難うございます。展示環境の良くない中、ご好意をもってご覧いただき、感謝します。

船渡地区の張子人形型に和紙を何枚も貼って成型します。



★都市化が進む程、このような施設は貴重になると思う。もっとPRすべきと思う。【50歳代】

古民家やこのような展示は何故必要かを、これからも問い続けていきたいと思ひます。発信の機会や場所を増やしたいものです。有難うございました。

★わたしたちが今、べんりにつかっているものは、ぜんぶむかしのひと、もしくは、いままでつだってくれるひとのおかげなんですね。びっくりしたことがあります。「たぬきの糸車」をしていますか？わたしはいま1ねんせいで、こくごでよんだら「土間」というものがでてきて、糸車があったらいいなとおもったら、おかあさんが「あったよ」とおしえてくれたぬきのにんぎょうがあれば、かんぺきだねと、おかあさんとはなしました。【小学生】

さっそく「たぬきの糸車」をよみました。いいおはなしですね。おかあさんとのステキな会話に、心があたたかくなりました。感想文のはじめのところ、とてもすばらしいことに気づきましたね。

中村家住宅で栽培中の綿。かつて糸車で紡ぎました。



★柿渋や畳紙は、若い人には何のためにあるのか書いていないと、わからないのでは？と思ひました。

【50歳代】

ご指摘有難うございます。わかりやすい展示、キャプションを勉強していきたいと思ひます。

★この紙もえんぴつも、自然のものから出来上がっているとすると、有難く感じました。和紙など作ってみたいと思ひました。【40歳代】

和紙や布を古代の方法で染色する吉岡更紗氏も、自然への感謝を仰っていましたね。（「婦人画報」2019年10月号・婦人画報社）先人たちは今よりも自然への畏敬の念が深かったのかもしれない。

一度使った和紙を漉き直したものです。  
宿紙

